

都市の小規模公園に関する事例研究

－空間特性と利用形態について－

日大生産工（院）○ 中村 達久 日大生産工 日高 單也

日本生産工 田中 遵

1. 背景と目的

都心部の高密度が続く今日、公園や広場などの公共スペースは、地域住民に良好な生活環境をつくるだけでなく、そこを訪れた人にとって遊ぶ、休息、集い、働く人にとっては、気分転換や心身のリフレッシュなど多様な役割を担う。また、緑化による都市景観の美化など、都市・生活環境の質を高める重要な要素である。なかでも、都市公園の種類で、誘致距離や規模が最小である街区公園や、各自治体の条例に基づいて設置、整備される児童遊園は、人々にとって最も身近でかつ重要な公共スペースであるといえる。

そこで本研究では、街区公園、児童遊園のことを小規模公園として定義し、都市の小規模公園の空間特性と利用形態を明らかにすることで、今後の都市の小規模公園づくりの知見とすることを目的とした。

2. 都市公園と児童遊園について

2-1. 都市公園

都市公園法において都市公園は、住区基幹公園、都市基幹公園、大規模公園、国営公園、緩衝緑地等の種類がある。その中で、住区基幹公園は人々の日常的な利用を目的として公園である。種別は、街区公園、近隣公園、地区公園に分けられる。（表1）また、平成5年の都市公園法施行令の改正により、従来の「児童公園」から「街区公園」と名称が変更され、これまでのように遊具の設置義務が除外され、施設内容の自由度が増している。

2-2. 児童遊園

児童福祉法において「児童厚生施設は、児童遊、

表1. 住区基幹公園の種別¹⁾

住区基幹公園	街区公園	主として街区に居住する者の利用に供することを目的とする公園で誘致距離250mの範囲内で1箇所当たり面積0.25haを基準として配置する。
	近隣公園	主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園で1近隣街区当たり1箇所を誘致距離500mの範囲内で1箇所当たり面積2haを基準として配置する。
	地区公園	主として徒歩圏内に居住する者の利用に供することを目的とする公園で誘致距離1kmの範囲内で1地区当たり1箇所面積4haを基準として配置する。

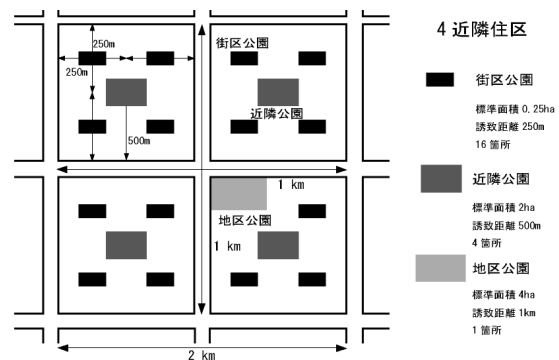


図1. 住区基幹公園の配置基準

園児童館等児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操をゆたかにすることを目的とする施設とする」。条例は、各自治体の条例に基づき設備、整備されるが、最低基準として「広場、遊具及びトイレを設ける」²⁾こととしている。

3. 調査地域概要

3-1. 調査対象地の選定

本稿では、東京都心部の都市で最も多くの小規模公園（146個）を抽出することができた新宿区に着目した。周辺にオフィス・商業・住宅地域があり、住民、働く人、訪れる人など小規模公園の多様な役割が求められると考えられる。新宿駅周辺を調査対象地にした。本稿では小規模公園を研

究することから、新宿駅から最も近い歌舞伎町公園を中心とした、半径1キロ圏内を駅周辺と定義し、半径1キロ圏内の小規模公園25箇所（区役所に登録されている）を調査した（図2）。新宿公園は改装工事中のため除外した。

3-2. 新宿区について

現在の新宿駅周辺は商業地・住宅地、など様々な用途を持っている。また、一日の平均利用乗降数が世界で一番多いことから、昼夜を問わず人の流れが絶えることはない。新宿区には小規模公園が146箇所ある。面積の最小が70㎡から最大9602㎡と開きが見られ、都市公園で最小規模である街区公園の標準規模2500㎡に対し、11箇所しか基準を満たしていない。146箇所の平均面積は2151㎡であった。また新宿では児童遊園の基準を都市公園の街区公園の基準を使い計画している。

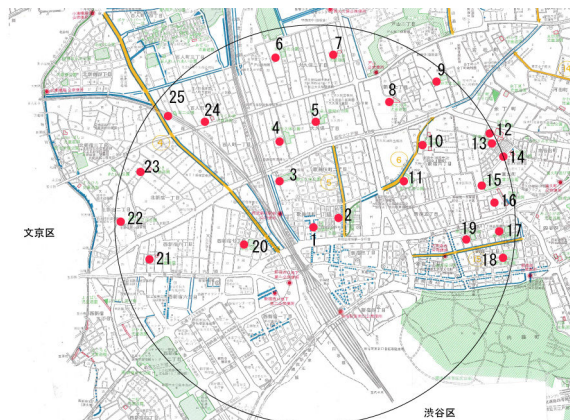
4. 調査方法

調査対象公園25箇所の平面図と現地調査から各公園の規模、設備などの要素を把握し、空間特性を分析・考察した。利用形態については、現地調査とヒアリング調査によって、分析・考察した。

5. 空間特性

5-1. 形状の類型化

各公園の形状簡略図（図3）から小規模公園の類型化を行った。a. アイランド型に3, 17, 19, 20, が該当した。すべての辺が道路で囲まれているため、視界が開けている。b. 通り抜け型は正方形や長方形からなるb1とL字型や曲線型からなるb2に分類した。b1. 通り抜け型は4, 6, 9, 14, 15, 18, 22, と最も多く該当する小規模公園があった。2つの道路に接している2面以外は建物と隣接していることが多く、街区移動際抜け道になる。b2. 通り抜け型は2, 5, 11, 12, 13, 21, が該当した。2つの道路を小規模公園で繋いだ形となっており、通り抜け空間として利用される。1辺が大きな道路に面し、もう1辺歩道に面しているものが多く、L型が多いことから、b1. と違い視界が良いとは言えず、入口を認知することが難しく、地域住民裏道の要素が強いと考えられる。c. 分散型は、



番号	公園名	9	抜弁天北公園	18	花園公園
1	歌舞伎町公園	10	天神山児童遊園	19	花園西公園
2	新宿遊歩道公園	11	東大久保公園	20	柏木公園
3	大久保公園	12	余丁町児童遊園	21	なるこ児童遊園
4	西大久保公園	13	富久町児童遊園	22	蜀江坂公園
5	小泉八雲公園	14	中富久児童遊園	23	さつき児童遊園
6	大久保北公園	15	富久さくら公園	24	つつじの里児童遊園
7	西大久保児童遊園	16	西富久児童遊園	25	百二公園
8	東大久保児童遊園	17	花園東公園		

図2. 調査対象の公園³⁾

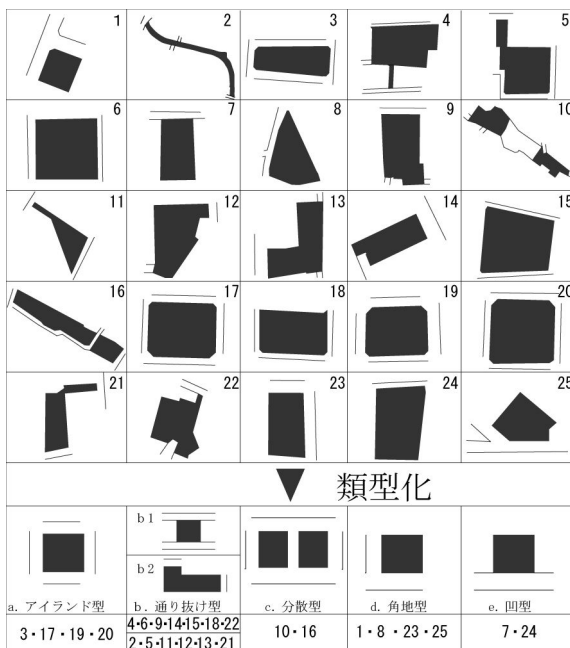


図3. 各平面簡略図と類型化

10, 16, が該当した。敷地の間に道路や歩道などがあることによって空間が分裂している。10, は空間の真ん中に神社があることによって分裂している。16, は斜面に設立され自動車の動線確保のために分散している。e. 凹型は7, 24, が該当した。1辺が道路に面しており、残りの3辺が建物によって囲まれている。

2表. 各小規模公園の空間特性

番号	公園名	型	面積㎡	広場割合	緑化広場割合	遊具面積割合	入口数			遊具										設備					
							道路側	歩道側	合計	複合遊具	ブランコ(2歳)	滑り台	砂場	ジャンプブルム	小遊具	シーソー	鉄棒	ベンチ	水道	便所	時計	風車	バーゴラ	防災倉庫	
3	大久保公園	a	3272	99.5%	0.4%	0.1%	5		5									●	●		●	●		●	
17	花岡南公園		1219	66.2%	33.1%	0.7%	4		4	1			1		2			●	●		●	●		●	
19	花岡西公園		1021	60.3%	36.8%	12.9%	4		4		1	1	1	1	3			●	●		●	●		●	
20	花岡公園		1395	77.8%	21.9%	0.3%	4		4				1		1			●	●		●	●		●	
4	西大久保公園		2309	62.6%	36.8%	0.6%	2	2	4		2	1	1		2	2	2	●	●		●	●		●	
6	大久保北公園		783	84.7%	14.3%	0.8%	4		4	1	1				1			●	●		●	●		●	
9	花井元北公園		1250	51.6%	33.2%	15.8%	1	2	3	1	1		1					●	●		●	●		●	
14	中富久児童遊園		580	52.2%	29.6%	18.2%	2		2			1	1	1			3	●	●		●	●		●	
15	富久さくら公園		4550	24.9%	74.7%	0.5%	4		4	1	1		1		6			●	●		●	●		●	
18	花岡公園	b1	3891	91.2%	8.3%	0.5%	5		5	1	1	1	1	2		2	●	●		●	●		●		
22	鶴ヶ丘公園		738	56.0%	23.9%	20.1%	1	1	2	1	1							●	●		●	●		●	
2	新保遊歩道公園		2311	45.9%	54.1%			4	4									●	●		●	●		●	
5	小島八雲公園		1512	55.9%	44.2%		3		3									●	●		●	●		●	
11	東大久保公園		967	41.1%	49.1%	9.8%	1	1	2		1	1	1	1	4			●	●		●	●		●	
12	余丁児童遊園		1453	60.2%	20.4%	19.4%		2	2	1	2	1		1	1	2	3	●	●		●	●		●	
13	富久町児童遊園		377	76.9%	0.0%	23.1%		3	3			1	1		1			●	●		●	●		●	
21	なご児童遊園		222	82.7%	14.6%	52.7%	2		2	1		1	1	1	2		3	●	●		●	●		●	
10	天神山児童遊園		1248	88.9%	10.5%	0.6%	1	5	6		1	1		1				●	●		●	●		●	
16	西富久児童遊園	c	1878	68.6%	17.4%	14.0%	6	2	8	2	1	1	1	1	1	1	3	●	●		●	●		●	
1	新保児童公園	d	198	92.9%	7.2%		1		1									●	●		●	●		●	
8	東大久保児童遊園		906	49.1%	31.5%	20.4%	2		2		1	1	1	1	6		3	●	●		●	●		●	
23	さつき児童遊園		198	30.3%	32.4%	37.3%	3		3				1	1			2	●	●		●	●		●	
25	花岡公園		291	67.2%	23.2%	9.6%	2		2		1		1					●	●		●	●		●	
7	西大久保児童遊園	e	304	57.9%	17.3%	24.8%	1		1	1								●	●		●	●		●	
24	つばき町の児童遊園		314	64.7%	34.8%	0.5%	1		1					1				●	●		●	●		●	
平均			1331	62.3%	26.40%	12.9%			個数	11	16	12	15	6	31	6	21	24	21	19	20	10	14	15	

5-2. 面積・入口

表2から面積規模でみると、最大の面積が15, の4550㎡で、最小の面積は1, 23, の198㎡であった。25箇所の公園の平均面積は1331㎡であった。次に形状の類型で比べてみると、a. アイランド型の平均値は1704㎡、b1. 通り抜け型では2040㎡、b2. 通り抜け型では1140㎡、c. 分散型では1563㎡、d. 角型では398㎡、e. 凹型では310㎡であった。もっとも値が大きかったb1. 通り抜け型とa. アイランド型は、道路と道路に挟まれた街区に設置されているため、大きい規模のものが多く、b2. 通り抜け型は、道路の入り組んだ地域の空き地や残地を利用するため面積があまり確保できていないと考えられる。d. 角地は街区の角の空き地や残地を、利用して設置しているため面積が小さいと思われる。

入口平均設置数はa. アイランド型は四隅に配置されるものが多く平均4.3箇所あり、b1. 通り抜け型も四隅に配置されるものが多く平均3.4箇所あり、b2. 通り抜け型ではそれぞれ違う面に1箇所、平均2.8箇所、c. 分散型はもっとも入口数が多く道路と面した各面に設置され平均7箇所、d. 角型では道路と面した2面にそれぞれ1箇所ずつの平均2箇所、e. 凹型は道路と面した面に平均1箇所であった。

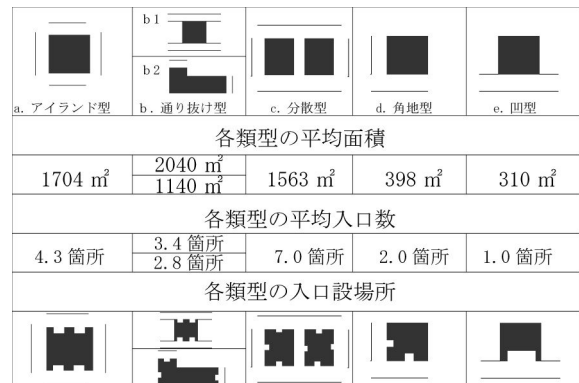


図4. 各類型の特徴

5-3. 緑地

24箇所の公園で花壇による緑地が施されていた。24箇所の平均緑地面積29%であった。緑地配置はa. アイランド型、b1. 通り抜け型、b2. 通り抜け型、分散型は、内周辺部に多く緑地が設置され周辺環境と緩衝の役割が考えられる。また、b2. 通り抜け型の2, は空間周辺を緑地に覆われているため、視界が悪く、防犯カメラを設けるなど安全面の配慮も行っている。d. 角型、e. 凹型の、7, 24, 25, は道路に面した1辺に緑地を設けず建物に面したその他の面に緑地を設置していることから視界確保が目的であると考えられる。

5-4. 設備と設備配置状況

各小規模公園の現地調査から設備内容調査する

と、表2の結果になった。ゴミ箱と街頭は25箇所すべての公園にあったので表から除外した。次にベンチ24箇所、遊具・水道21箇所、と続いている。あとは、時計、防災倉庫、パーゴラ、灰皿となっている。ゴミ箱は多くの場所で2個ずつ数か所に、設置されていることが多かった。ベンチも公園内の数か所に設置されていた。灰皿は、ベンチ、ゴミ箱と隣接しておかれているが多かった。遊具が置いてある公園には滑り台やブランコ、砂場などは必ず1つは設置されていた。17,を除く砂場がある公園は、砂場にはパーゴラが備え付けられていたことから、砂場は滞留する時間が長く日陰を作り日光から子供を守ると考えられる。また、砂場にはフェンスに囲まれていることが、新宿駅周辺には野良猫が多くいることから、衛生面を考慮して備え付けられていた(図5)。また、防災倉庫など設置されている公園などがあることから、設備内容は形状より、地域特性を優先して設置をすることが考えられる。設備の配置は、a. アイランド型は、入口の動線を確保し、中央に大きなスペースを配置し、その周りに設備を配置するタイプと中央に遊具を置き、周りをベンチ、ゴミ箱やトイレなどの設備と動線として使う2つのタイプがあった。b1. 通り抜け型も、a. アイランド型と同じ2つのタイプがあった。b2. 通り抜け型は形状が特徴的で、スペースが限られているため、動線を確保し、ベンチ、ゴミ箱やトイレなどの設備を周りに配置し、遊具はスペースの確保ができる場所に乱雑に置かれている。分散型も形状が特徴的であるため、b2. 通り抜け型と似た配置関係になっている。d. 角型、e. 凹型は面積が狭いため、他形状に比べベンチ、ゴミ箱の数を減らすなどし、スペースを確保しているが、遊具などを配置している7, 23, 25, は広場などの開放感あるスペースがない。道路に面していないスペースに遊具などを配置することで、動線は確保している。設備配置において、ベンチ、ゴミ箱は周りにおかれ、休息、通り抜け目的でも利用しやすい配置となっている。



図.5 砂場とパーゴラ

6. 利用目的

a. アイランド型、b1. 通り抜け型、は遊ぶだけでなく休息、抜け道利用の人が多く住民だけでなく、買い物、休息目的の人にもみられた。b2. 通り抜け型は地域住民の抜け道としての利用されていることが多かった。d. 角型は路上生活者が多く見受けられた。

その他形状は使用人が少なく、今後も調査を行う。

7. まとめ

本稿では新宿区駅周辺の小規模公園を対象に現地調査や平面図を分析し、公園の形状を6タイプに類型できた。また、それぞれの形状空間特性・利用形態を把握することができた。

今後も空間特性・利用形態を明確にし、地域特性や利用者にアンケートを行い、都市の小規模公園のあり方を研究していく。

8. 参考文献

- 1) 国土交通省 HP
http://www.mlit.go.jp/crd/park/shisaku/p_toshi/syurui/index.html
- 2) 厚生労働省 HP <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/dv34/index.html>
- 3) 東京地図社
 ・新しい都市緑地法・都市公園法、国土交通省 都市・地域設備局 公園緑地課、公園緑地行政研究会 2005年
 ・みんなの公園 夢プラン180、インタラクション、爪谷 綱延、文芸社 2002年